

今月の Pick Up

編集室がピックアップした旬な話題をお届け！
詳しくは各ホームページをご覧ください。

01 多彩な講師陣が登場！「第72回高知市夏季大学」



リニューアルオープンしたかるぽーとで、ことしも「高知市夏季大学」が開催されます。

▶日程 7月18日(火)～29日(土)

※23日(日)・24日(月)は休講。

▶時間 火～金曜日 18時半～20時
土曜日 15時～16時半

6月24日(土)から受講券販売開始

▶一般受講券

10日間有効。席により2,000円～4,700円。学生やお手伝いが必要な方を対象とした特別受講券もあります。

▶一日受講券

記載日のみ入場可。各講座とも1,000円。

※受講券はいずれも全席指定。購入方法など、詳しくはホームページをご覧ください。



金平 茂紀さん 小平 奈緒さん サヘル・ローズさん



高橋 淳さん 豊ノ島さん

【問い合わせ先】市文化振興事業団 ☎ 883-5071

18日(火)	ウクライナ戦争と世界のゆくえ ——日本人として何を考えるか 金平 茂紀(ジャーナリスト)
19日(水)	土佐の大地を見る／食べる／学ぶ／詠む 尾池 和夫(静岡県立大学学長)
20日(木)	出会いこそ、生きる力 サヘル・ローズ(俳優・タレント)
21日(金)	日本の現場から見る資本主義 斎藤 幸平(経済思想家)
22日(土)	富太郎と林太郎(鷗外) —— 同い年の二人が歴史に放った光 —— 朝井 まかて(小説家)
25日(火)	唯一無二の自己表現へ 小平 奈緒(平昌五輪金メダリスト)
26日(水)	iPS細胞を用いてパーキンソン病と戦う 高橋 淳(京都大学 iPS細胞研究所 所長・教授)
27日(木)	いい塩梅をめぐるいのちの物語 ——在宅ホスピス医からのメッセージ—— 内藤 いづみ(ふじ内科クリニック院長)
28日(金)	豊ノ島の相撲人生 豊ノ島(タレント)
29日(土)	小説家という夢 今村 翔吾(歴史・時代小説家)

02 熱中症は予防が大事です



熱中症とは、高温多湿な環境に長時間いることで、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態をいいます。屋外だけでなく室内で何もしていないときでも発症し、救急搬送されたり、場合によっては死亡したりすることもあります。体調の変化に気をつけ、周囲にも気を配り、熱中症による健康被害を防ぎましょう。

予防方法

- ☑ 暑さを避ける
- ☑ こまめに水分補給をする
- ☑ エアコン・扇風機を使う
- ☑ 高齢者や子どもは特に注意する

夏本番に
備えましょう



【問い合わせ先】消防局救急課 ☎ 871-7505



江ノ口川沿いから撮影した市中心部。焼け野原の先に、高知城と焼け残った城東中学校(現在の追手前高校)が見えます。写真の一部は、AIを使ってカラー化しています。

DATE ■ 1946年2～3月ごろ
PLACE ■ 高知市中心部

高知市の SNS

高知市みどり課わんぱーくこうち
アニマルランド公式ツイッター
[@KochicityZoo] フォローはこちらから▶



わんぱーくこうちアニマルランドで飼育している動物に関することや、イベント情報などをお知らせするアカウントです。動物に関する豆知識や飼育の様子を、たくさんの写真や動画などで発信しています。かわいい動物たちの姿をチェックしてみませんか。

高知市の人口と世帯

令和5年6月1日現在

人口(前月比) ▶ 31万7,832人(-157人)

男 14万8,670人(-72人)

女 16万9,162人(-85人)

増加 出生149人 転入等568人

減少 死亡323人 転出等551人

世帯(前月比) ▶ 16万4,582世帯(-3世帯)



増加 転入403世帯 その他160世帯

減少 転出309世帯 その他257世帯

おらんく家の 元気人! Vol.4



profile >>> 土居 健人 Doi Kento (17)
(左から) 武林 青海 Takebayashi Umi (15)
武林 青空 Takebayashi Sora (18)

久重 natural で長く活動とともに、久重 youth を立ち上げた代表3人。ユニフォームのTシャツには「90(久重)」のロゴが入っている。

地域づくりに「こども・わかもの」の声を

これからも地域の未来を考えていきたい——そう語るのは、「久重 youth」メンバーの高校生3人。3人は小中学生の頃から、地域の魅力を再発見する団体「久重 natural チーム」で活動していますが、その活動は原則として高校生まで。「高校を卒業しても大人と一緒にまちづくりに関わりたい」と相談したことで、まちづくり計画を推進することも・わかものチーム「久重 youth」が生まれました。

現在のメンバーは保育園児から大学生まで32人。「最初はなかなか活動後の感想を言えなかった子ども、だんだん自分から発言するようになりました」と話す3人。そんな3人も最初から積極的だったわけではなく、「自分たち

の思いや考えを伝えると、大人が協力してくれる」そんな体験の積み重ねの中で、徐々に変わってきたそうです。

今の目標は、自分たちで近くの山に小屋を建て公園のようにすることで、いつでも集まれる場所をつくることで、「子どもたちが、また帰ってきたいと思える地域にしたい」と考えています。

「星空やホテル、人といった久重の魅力がたくさんの人に伝えたい。そして久重にずっと元気なまちでいてほしい」。地域が好き、地域のために何かしたい。そんな思いにあふれた3人の笑顔が、緑豊かな里山で輝きました。

▶久重 youth 立ち上げに集まったこども・わかものたち

